OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	言語文化学 Vol.15　編集後記
Author(s)	木原, 善彦
Citation	大阪大学言語文化学. 2006, 15, p. 193-193
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77898
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

編集後記

『言語文化学』の第15号をお届けします。今回は、事前の調査では論文25編、研究ノート2編の投稿希望があり、実際に投稿があったのが論文18編、そこから厳正な査読と審査を経て、本号では12編の論文が採用されました。結果として、投稿のあった論文の7割ほどが掲載されたことになります。投稿希望がありながら実際に論文が書かれなかったものについては、個々の事情もあると思いますが、その理由の一つには、自己の研究成果に対する投稿者の目が批評的・客観的になっていることが挙げられると思います。投稿論文の採択率が比較的高いことについては、査読者からの丁寧で有益なコメントのおかげで多くの論文がよりよいものに書き直されていることが一つの大きな要因だと思われます。ただ、投稿希望調査から最終原稿の提出やゲラの校正にいたるまでの各段階で、こまごました事務的なルールや締め切りが守られないケースが時折見受けられるのが残念ではあります。

2005年度から、言語文化研究科の再編拡充と助手の人数の減少に伴い、言語文化学会委員会の組織と運営の仕方が大きく変わりました。ひとまず本年度は、もともと事務局の助手に任せていた仕事のうち、会計と会員名簿の整理などを除いた仕事の多くを教員委員が分担する形で運営することを模索しましたが、必ずしも円滑に機能したとは言えません。査読については、昨年度のワーキンググループで念入りに作られたルールに基づいて円滑かつ慎重に進められましたが、事務的な面ではさらに改善の余地があります。まだこれからさまざまな面で学会運営の仕事をルーティン化し合理化を進める必要がありますが、それには、教員、修了生、院生を含む多くの学会員の協力が欠かせません。

最後になりましたが、本誌の刊行にあたっては、査読者の方々や事務局の中道助手に大変お世話になりました。また優れた論文を寄せてくださった執筆者の皆様にもお礼を申し上げたいと思います。

2006年3月

大阪大学言語文化学会委員会（木原善彦）